第十五講・詩

◇詩とは

詩の題材は、自然の風景やさまざまなできごと、作者の感じたことや思ったことなどです。詩では、それらのことを表現するときに、いちばんぴったりなことばを選びぬいているので、詩を読むときは、そのことばを味わい、意味を深く考えて読むことが大切です。

◇詩の特色

①行　ふつうの文章とはちがって、文のとちゅうでも行をかえます。また、文のとちゅうで行をかえず、ふつうの文章のような形式で書く詩もあります。

②連　ふつうの文章での段落にあたるものです。一つのまとまった内容を表します。連と連の間は、ふつう、一行あけます。

③表現上のくふう　短いことばで感動を表現するためにさまざまなくふうが用いられます。

・たとえ…何かにたとえて様子や感じを表す。

例 羊のような雲
（「ような」を使ってたとえる〈直喩〉）
息がこおる
（「ような」を使わずにたとえる〈隠喩〉）

・擬人法…人でないものを人にたとえる。

例 光がおしゃべりしている

・省略法…ことばをはぶいて、印象を強める。

・倒置法…ことばの順序を入れかえて、感動を強める。

例 どうだろう　この沢鳴りの音は

・対句法…リズムや意味のにている行をならべる。

例 太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪降り積む
次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪降り積む

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

・くり返し…同じことばや行をくり返してリズムを生み、感動を強める。
例この遠い道程のため　この遠い道程のため

◇詩の読み方・味わい方

①ことばのリズムを味わう　声に出して何度も読み、リズムをとらえます。
②情景をとらえる　詩にえがかれている風景や、作者の位置を読み取り、情景を豊かに想像します。
③感動をとらえる　作者が何に感動してこの詩を作ったのか、この詩でうったえたいことは何かをとらえます。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

水たまり

宍倉（ししくら）さとし

水たまりって　いいな
いつも　ねそべって
いられてさ

水たまりって　いいな
いつも　空をながめて
いられてさ

水たまりって　いいな
いつも　雲とはなして
いられてさ

問一　この詩は全部でいくつの連（れん）からできていますか。漢数字で答えなさい。

□連

問二　――線部「水たまりって　いいな」とありますが、水たまりのどんなところを「いいな」と感じていますか。三つ書きなさい。

□　□　□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　この詩で、作者がいちばん伝えたかった気持ちを表している一行を詩の中から書きぬきなさい。

問四　この詩で使われている表現のくふうにあてはまるものを次のうちからすべて選び、記号で答えなさい。

ア　「～ような」を使ってたとえている。
イ　「～ような」を使わずにたとえている。
ウ　人でないものを人に見立ててたとえている。
エ　ことばをはぶいて、印象を強めている。
オ　ことばの順序を入れかえて、感動を強めている。
カ　リズムや意味のにている連をならべている。

問五　この詩から受ける感じとして、もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　暗くしずんだ感じ
イ　にぎやかでふざけた感じ
ウ　明るくほのぼのとした感じ
エ　静かでしんみりした感じ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

つらら　　佐々木(ささき)　たづ

ひさしの下から　つららがはえて
地面へむかって　グングンのびる
屋根の雪が　日なたぼっこして
うっかり水に　もどったものも
みんな集めて　つららは①育つ
つららって　こんなにはば広いものか
上は広くて　下とがってて
まるで氷の三角剣(さんかくけん)
あれでつららは　グングンのびて
グサリと地面を　さすつもりだろうか
すると　つららが　ニヤリとわらい
グサリとさすなんて　そんなことしないよ
おれたちみんな　なかまだからな
今は冷(つめ)たい　②こわいかおしてるが
③冬のあいだの　かりのすがただ
春になったら　谷川で会おう
夏になったら　湖で会おう
富士山(ふじさん)うつして　待っているって
④ああ　夏が待ちどおしい

問一　——線①「育つ」とありますが、これと同じ意味で使われていることばを詩の中から三字で書きぬきなさい。

問二　——線②「こわいかおしてる」とありますが、これはつららのどんな様子を表していますか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　――線③「冬のあいだの　かりのすがただ」とありますが、つららのもとのすがたは何ですか。

問四　――線④「ああ　夏が待ちどおしい」とありますが、これは、だれがどんな気持ちで言ったことばですか。もっともよいものを次のうちから選(えら)び、記号で答えなさい。

ア　作者が、寒い冬も終わって、湖で遊べる夏が早く来ないかと、楽しみにしている。

イ　作者が、こわいつららが消える夏が早く来ないかと、楽しみにしている。

ウ　つららが、なかまと湖で会える夏が早く来ないかと、楽しみにしている。

エ　つららが、もとのすがたにもどって、湖で富士山をうつせる夏を、楽しみにしている。

問五　作者は、つららを何にたとえていますか。

問六　詩の中に、つららが話しているように書かれている部分があります。それはどこからどこまでですか。初(はじ)めと終わりの五字を書きぬきなさい。

〜

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

素直な疑問符

吉野弘

小鳥に声をかけてみた
①小鳥は不思議そうに首をかしげた。

わからないから
②わからないと
素直にかしげた
あれは
自然な、首のひねり
*1てらわない美しい*2疑問符のかたち。

時に
風の*3如く
耳もとで鳴る
意味不明な訪れに
私もまた
③素直にかしぐ、小鳥の首でありたい。

*1てらわない＝気どってみせない。
*2疑問符＝疑問を表す「？」の記号。クエスチョン・マーク。
*3如く＝……ように。

問一　――線①「小鳥は不思議そうに首をかしげた」とありますが、このすがたを作者は何と表現していますか。詩の中から十五字で書きぬきなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　――線②「わからない」とありますが、何がわからないのですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　自分の前に何があるのか
イ　何と声をかけられたのか
ウ　作者がだれであるのか
エ　作者が何をしているのか

□

問三　――線③「素直にかしぐ、小鳥の首でありたい」にこめられた作者の思いとして、もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　知ったふうをよそおうことなく、正直でありたいという思い
イ　いくつになっても人からかわいいと言われたいという思い
ウ　他人の意見にまどわされず、自分を信じたいという思い
エ　自分の耳に入るさまざまな音にびん感でありたいという思い

□

問四　この詩についてのべたものとしてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　小鳥のすがたを通して、作者の思いを表している。
イ　同じことばをくり返し、速く力強いリズムを目立たせている。
ウ　ことばをはぶいて、意味をあいまいにぼかしている。
エ　ことばの順序をふつうと入れかえて、作者の迷いを強調している。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　詩

一題目

問一　三（連）
問二　（例）いつもねそべっていられるところ。
（例）いつも空をながめていられるところ。
（例）いつも雲とはなしていられるところ。（順不同）
問三　水たまりって　いいな
問四　ウ・オ・カ　（順不同）
問五　ウ

二題目

問一　のびる
問二　（例）三角剣のようにとがっている様子。
問三　水
問四　ア
問五　氷の三角剣
問六　グサリとさ　～　待っている

三題目

問一　てらわない美しい疑問符のかたち
問二　イ
問三　ア
問四　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。